



7 研修第 20 号

(令和 8 年 2 月)

発行: 宇治市乳幼児教育・保育支援センター

アドレス: nyuyo.jicenter@city.uji.kyoto.jp



令和 7 年度 乳幼児教育・保育協働研修通信

テーマ
「保育を観て学び合う」
(大久保保育所)

令和 7 年 12 月 25 日(木)

第 20 回研修会(教育・保育の質向上
分野)を開催しました。

21 名の先生方と一緒に学び合いました。
(保育所(園)11 名(大久保保育所職員 5 名を含む)・
幼稚園 2 名・ 認定こども園 5 名・小学校 3 名)

※ この研修通信は、研修会にご参加いただいた皆様はもとより、園内の体制等でご参加いただけなかった皆様にも研修会での学びの一端が伝わることを願って、研修会終了後の参加者による『振り返りシート』をもとにまとめたものです。

1. 公開保育





公開保育中の環境構成や保育者の関わりで、 心に残ったこと

(参加できなかった仲間に知らせたいこと)

環 境



- ・ 子どもが自ら生活できる環境が保育者の見守りにつながる。
- ・ 少人数で過ごせる環境
- ・ 子どもも大人も分け隔てることなく過ごせる環境
- ・ 製作時に個別の“のりシート”（牛乳パックで作ったもの）を使われていたこと
- ・ 乳児でも好きな遊びを選べるように環境が整えられており、2歳児の製作も個別でされていた。
- ・ 分かりにくい子にとっては一人ひとりに対して伝えることはとても大切だなと思った。

保育者の 関わり

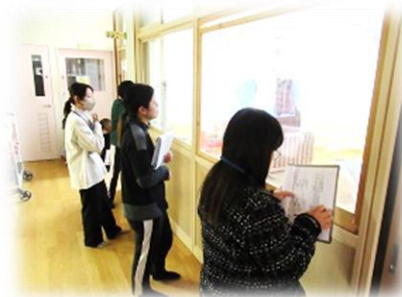
- ・ ジェスチャーを伝える手段として大切にしていることが印象的だった。
- ・ たくさんの言葉がけで子ども達を認めている所が素敵だった。
- ・ 子どもたち一人ひとりへのあたたかい言葉がけ、丁寧な子どもとのやりとりが印象的だった。
- ・ 目線を低く、丁寧な語りかけで子ども達と関わっておられた。時には認め、受け入れ、一緒に楽しむ姿がとても心に残った。
- ・ 0歳でもできることは自分でするように言葉をかける。

外国にルーツ をもつ子ども

- ・ どの子か分からないほど、自然に溶け込んでおり、日々の信頼関係の積み重ねだと感じた。
- ・ 周りを見て理解し動いていた。
- ・ 実物を見せながら確認させるなど、個別の声かけをされていた。
- ・ しっかり座って先生の話聞いて製作ができていた。
- ・ 全体に説明した後に、さらに言葉の理解が難しい子に教える流れが自然にできていたこと。

絵 本

- ・ 活動の導入として絵本を使うことで意欲を持って活動に入ることができていた。
→絵本の力は保育の中で特に大きい。
- ・ 絵本の読み聞かせがジェスチャーを入れてとても上手だと思った。



2. グループ協議

【テーマ】

『生活力を育む保育～多国籍の子どもたちと共に育ちあう保育をめざして～』



グループ協議中に仲間の発言で、心に残ったこと

(参加できなかった仲間にも知らせたいこと)

※ 研修時間が限られていたため、協議時間を長くすることを優先しましたので、各グループ間の協議の結果については別紙(資料:協議の記録 ABCD)でお知らせします。

他の園(校)ではこんな工夫をされています！

- 地球儀を置いておくと外国籍の子どもが中心に子ども同士のやり取りが増えた。
- 同じ母国語の子に役割を作って通訳してもらう。
- 多国籍である子どものことを頼りにしながら母国のことを教えてもらう機会を作ったり、言葉遊びをしたりして楽しんでいる。
- 外国の子の対応には、英語が使われているとのこと



大切です！

- 全ての子どもにルーティンは大切
- 個々のペースを尊重するための環境と導線
- わかりやすい環境作り
- 順番やそこにいくまでの過程より“できたね”“がんばったね”という成功体験を積んでいくこと
- 保育所と家庭が一緒に協力し合ってこそ、子どもは伸びる。
- どうしても一斉保育をしがちだがそうじゃなくてもよい。



※ 本研修会は、時間が短かったため、協議時間を長くすることを優先しました。そのため、各グループ間の協議の共有については別紙(資料)でお知らせします。

3. 指導助言



同志社女子大学 現代社会学部 現代こども学科
教授 塘 利枝子 先生

講師の先生のお話の中で、心に残ったこと
(参加できなかった仲間に知らせたいこと)



【園(所)・校では】

- ・ 日本語がわからない子どもにも安心した雰囲気を与えながら堂々と日本語で会話する。
- ・ わからなくてもわかろうとすることが重要でそのことが子どもの自己肯定感を育て、生きやすさとともに発達を促すと語られたこと
- ・ 伝わる経験の大切さ
- ・ 言葉が伝わらなくても共感し言語化していくことの大切さ
- ・ どうせ伝わらないから…と子どもが伝えることを諦めないように保育者は支援をしていく。
- ・ 言葉を使わないリトミック遊びは大事である。上手だねと認めてもらえる。次のステップでは数遊び、言葉遊びを入れる。手拍子をしながら言葉で話す。(例えば「猛獣狩りに行こう」の遊びやグリコパイナップルの遊び)

大切なこと

【家庭では】

- ・ 家では母語で語りかける。
- ・ 母語の大切さ、母語がしっかりしている上での日本語の獲得に繋がる。
- ・ 『親の母語で語りかけ、読み聞かせをしたらいい』ということ
(母語がしっかりしていると第二言語が入りやすいのは実感している)…小学校教員



塘先生より
参考図書を紹介していただきました。

「外国につながる子ども」の
保育と保護者支援に使える
外国語例文・絵カード集

社会福祉法人日本保育協会
会・咲間まり子／編著

少人数
で過ごせ
る環境

個別の“のりシ
ート(牛乳パック
で作ったもの)”
来年度活用した
い。

「外国籍だか
ら」ではなく、全
体への支援として
取り組む。

絵カードや日
本語と母語で
の対応文を活
用する。

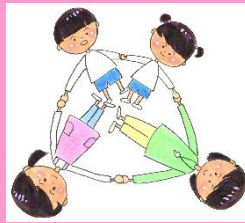
一人ひとりに
合わせた環境を
心がける。

海外ルーツの
保護者と絵本を
共有して家では
母語で話しかけ
てもらう。

「手作りのイ
ス」園でも
製作したい。

外国籍の子どもに
伝わらなくても子ども
のやっていることを言
語化して関わりたい。
絵カードが大切だ
と思った。

園・校で実践
したいこと



多国籍の子にも日
本の子ども達に対してもわからない月齢であ
っても、子ども達の行
動を言葉にして気持ち
に寄り添える保育を大
切にしていきたい。

全体への読み聞かせ
の時は個別で読んであ
げる。女の子が山へ行く
など、詳しく手で指差し
て知らせる。真似をして
動いているのか言葉で
理解しているのかを見極
めるやり方を実践する。

今日学んだ内容
について、職員に伝
えると共に今いる園
児やこれから出会う
であろう子らに安心
と生きやすさを用意
したいと思った。

外国籍の子の
母国の絵本を用
意したり、文化
に触れたりする
機会をつくる。

外国籍の子もそう
でない子も一緒に生
活ができるよう、母国
語を大切にし、関わ
っていききたい。また、
共感を大切にしてい
きたい。

保護者に『母国語を大
切にすること』や『5分
でもいいので絵本の読み聞
かせ』をお願いする。
保育所では、子どもの
行動を言語化していく
ことを大切にし、育てていき
たい。

家庭では、『母語で
語りかけること』『母
語でのコミュニケーシ
ョンを大切にすること』を保護者と共有す
る。

リトミック、拍
をふむリズム
遊びなど

大久保保育所の先生方の振り返りシートより

保育を公開してよかったと思えること

自分たちの保育を見直す良い機会になった。

塘先生と出会ったことが大きい。

いろいろな先生からの視点で多様な意見が聞けた。

客観的に（自分のクラスの）保育の中で良かった部分を教えていただくこと

保育士の悩みを解決することにつながった。

講師の先生のお話の中で、心に残ったこと

- ・ 一斉指示で動くことができていても、本当に理解しているのか、個別に確認してあげた方がよい。（周りを見て動いている場合もある）
- ・ 保育所等では、日本語で語りかけてあげればよいこと・家庭では母語を大切に保護者に語りかけてもらうこと
- ・ 外国語しかわからない子たちに日本語で話しかければよいと言ってくださったことが心に残った。（日本語やジェスチャーで気持ちを汲み取ることが大事だと思った）
- ・ 保育所が全ての役割を背負うのではなく、適切な場所につなげていくことも必要という話があった。
- ・ 子どもが「やめて」「いや」を発信できることが大事（感情の絵カードを用意するなどの支援方法があること）
- ・ 日本の生活習慣や文化についても、しっかり伝えていくことが大切だということがわかった。

今日の学びを踏まえ、明日からの保育で実践したいこと

- ・ 個別指示でどこまで理解しているか知る機会をつくる。
- ・ 職員室からバックアップできることについて、担任の先生方に相談しやすくなったので実践したい。
- ・ 言葉の壁がある子どもにも保護者にも気持ちに寄り添うような日本語での声かけをしたいと思った。
- ・ 連携していけそうな機関を知り、皆で共有し担任が抱えなくていいよう進めていきたい。
- ・ 伝わらないだろうと諦めずに伝えていく。
- ・ 『保護者へ母語での読み聞かせ』『母語を育てることが大切』と伝えていきたい。
- ・ クラスの中にいる外国につながる子どもにも共同注意の力を伸ばすために指差しに応答していく。
- ・ 外国籍の子にも日本語とジェスチャー（動作）でたくさん話をしていこうと思う。
- ・ 少しずつ母国語を知っていきたい、それで子どもに伝えていきたい